

入浴介助における腰痛・介護負担感の解消を目指して 移乗支援介護ロボット: SASUKEを試用して



かご
＼ロボ／ 2024

令和6年度 鹿児島県介護生産性向上総合相談センター

【施設名】 特別養護老人ホーム ビハーラ

かご
\\ロボ／ 2024

1. 施設の概要



施設概要

かご
＼ロボ／ 2024

法人名	社会福祉法人 大川福社会
事業所名	特別養護老人ホーム ビハーラ
サービス種別	介護老人福祉施設
所在地	〒891-0704 鹿児島県南九州市穎娃町別府6597番地3
定員	入所29名 ショートステイ4名
特徴	ここで暮らす高齢者の方が「不安のない暮らしを送れるように」。そして、ご家族が「安心して見守れるように」。私たちは、ひとりひとりへの細やかな対応を大切に、安心した環境づくりを行っております。少人数制・ユニット型・個室、専属の担当者というスタイルをとっているのもそのためです。



かご
＼ロボ／ 2024

2. 取り組みの流れ



パッケージモデル

P	手順 1	改善活動の準備をしよう
	手順 2	現場の課題を 見える化しよう
	手順 3	実行計画を 立てよう
D	手順 4	改善活動に 取り組もう
C	手順 5	改善活動を 振り返ろう
A	手順 6	実行計画を 練りなおそう

プロジェクトの流れ

<ul style="list-style-type: none"> 改善活動を検討・実行に移すための体制づくり 介護現場での課題把握 介護ロボットの選定 導入計画書の作成 介護ロボット導入後のオペレーション変更の検討 介護ロボット導入の効果を把握するための定量的な仮説の設定 	8~10月
<ul style="list-style-type: none"> 介護ロボット導入準備（保管場所、活用ルール等の検討） 介護ロボットを活用した利用者へのケアの提供 介護ロボット導入後の効果検証 	11~12月
<ul style="list-style-type: none"> 期待していた効果（仮説）に対する、効果検証 振り返りミーティングの実施（良かった点、今後改善する点等の検討） 	1月
<ul style="list-style-type: none"> うまくいかなかったことに対しての実行計画の見直し 	1月

パッケージモデル

P	手順 1	改善活動の 準備をしよう
	手順 2	現場の課題を 見える化しよう
	手順 3	実行計画を 立てよう
D	手順 4	改善活動に 取り組もう
C	手順 5	改善活動を 振り返ろう
A	手順 6	実行計画を 練りなおそう

プロジェクトチームの立ち上げ（8月9日）

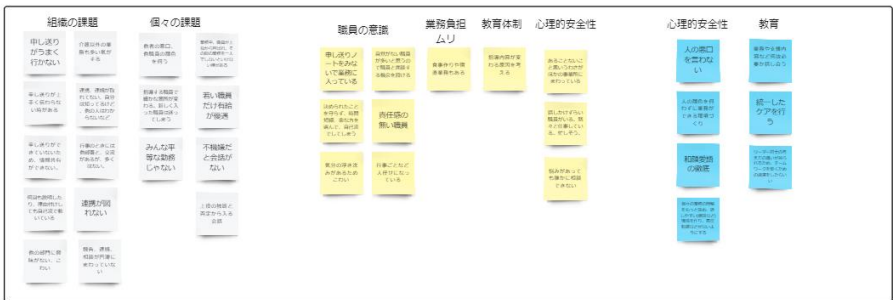
- プロジェクトリーダー：介護福祉士（ユニットリーダー）
- 報告書担当：事務
- 調査担当：事務
- 研修担当：介護福祉士（ユニットリーダー）
- マニュアル担当：介護福祉士（介護主任）、管理栄養士
- その他：看護師、介護福祉士

施設長によるキックオフ宣言（8月20日）

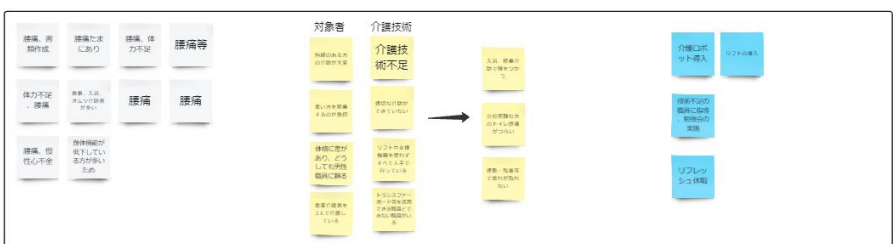
手順 2 現場の課題を見える化しよう (1 / 3)

ブレインストーミング (9月5日)

チームワークと協力について



業務内での身体的負担



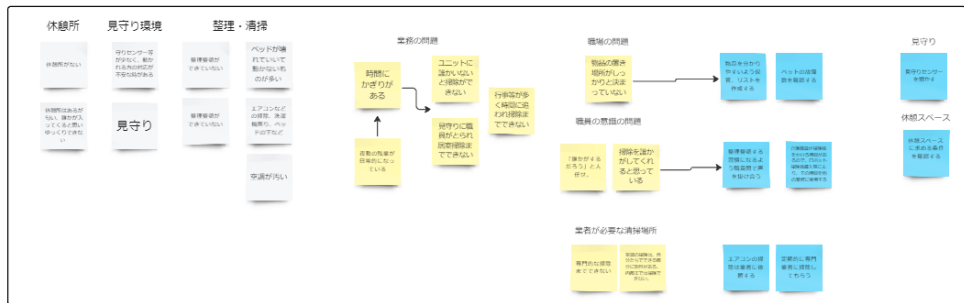
業務内での精神的負担



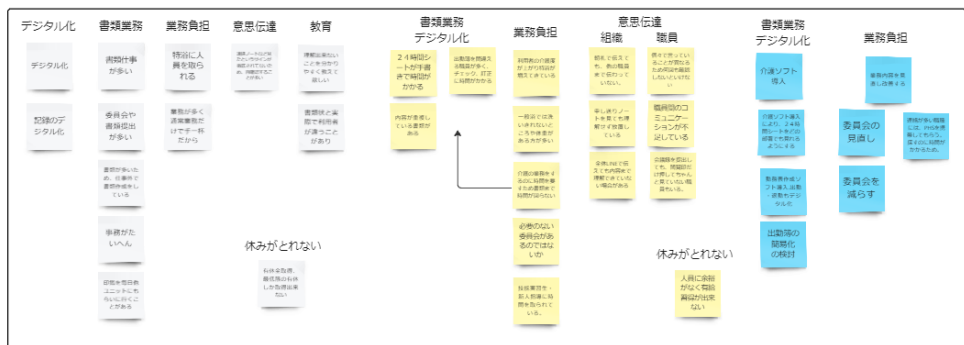
職場の改善案



労働環境について



業務プロセス・効率化について



手順2 現場の課題を見える化しよう (2 / 3)

ブレインストーミングの様子 (9月5日)



手順2 現場の課題を見える化しよう (3 / 3)

改善方針シート

	課題 1)	課題 2)	課題 3)	課題 4)
改善する課題	身体的負担の軽減	労働環境の課題	業務効率化 (記録業務、デジタル化)	チームワーク (職場の雰囲気・業務の公平性・コミュニケーション)
課題分析	<ul style="list-style-type: none"> 腰痛 トイレ移乗時の腰痛 入浴介助時の腰痛 技術・腰痛 体重が重い人の移乗介助困難 拘縮がある方の移乗介助困難 技術 職員の体力不足 福祉用具の活用困難 介護技術のばらつき 	<ul style="list-style-type: none"> 環境整備 職場清掃 物品修理・チェック 休憩場所の確保 環境保全意識 他人まかせ体質 清掃時間がない メンテナンス 専門性の高い清掃困難 ※具体的に記載願います。 	<ul style="list-style-type: none"> 書類業務 重複記録 手書き記録 勤怠管理が煩雑 ※現状の勤怠管理状況について教えてください。 手書き、ファイリング 手書きの負担、会議負担 (業務負担) 人手不足 会議関連業務の多さ 入浴(特浴使用時)が二人介護 →入浴業務評価 	<ul style="list-style-type: none"> (コミュニケーション) 指示の不明確さ ホウレンソウの不徹底 (心理的安全性) 悩みを相談できない ※メンタルヘルスに関する取り組み等がありますか？ (連携) 自己流の介護 勝手な自己判断
改善活動案	<ul style="list-style-type: none"> 介助等について研修を実施する。 移乗介助時の負担軽減を行うため、介護ロボットの導入を検討する。 	<ul style="list-style-type: none"> 物品管理リストを作成。 休憩場所の確保 専門性の高い清掃困難…現在、フィルター清掃は定期的に行っているが限界がある。特に埋め込み式エアコン。 	<ul style="list-style-type: none"> システムを導入しデジタル化をはかる。 会議関連業務の多さ(委員会) 特浴介助の軽減…介護ロボットの導入 	<ul style="list-style-type: none"> 介護手法、手順の統一をはかる。(各ユニット) 悩みを相談できない
実施する改善活動	<ul style="list-style-type: none"> ボディメカニクスの研修を実施(今後検討) 介護ロボットの導入…リフトを導入(検討中)。 デモ機による試行導入。 (機器の活用) ロボット導入場面のアセスメント(移乗業務評価) 機械浴(入所者の1/3が該当)、トイレ介助は大丈夫 車いす移乗 介護ロボットの導入→(センターにて機器の体験)いつ? リフトの導入→(センターにて機器の体験)いつ? 試用の範囲→それほど大変じゃないユニット 本格導入→大柄・寝たきりの方が多いユニット (教育) 介護技術向上の指導、研修会の開催 →いつ?だれに依頼?どのような内容? 腰痛アンケート実施→いつ?誰に? 	<ul style="list-style-type: none"> 物品管理リストを作成する。管理場所なども記載。 →職員の間接の差、プロセスの課題 休憩場所の確保に向け場所等の検討を行い、プライベートスペースを確保できるようにする。 →休憩ルール(場所、時間)について協議、周知 物品を分かりやすいように保管、リストを作成する。 故障している用品を定期的にチェックし管理する(クラウド) 整理整頓の習慣づけ 休憩スペースの見直し、休憩の取り方の統一(安心して休憩をとれる仕組み) 専門性の高い清掃は専門業者に依頼する →3S(整理整頓清掃)ルール作り、環境設定、習慣化 	<ul style="list-style-type: none"> 介護記録ソフト・シフト管理システムの導入…進行中→何を導入するかは未定だが、業者の説明は受けている。現在ワズマンで運用中。 [現状]シフト作成⇒Excelにて作成 出勤簿・届出等⇒紙ベース 給与計算集計⇒事務職による手作業 会議関連業務の多さ(委員会)の開催回数の確認にし、負担軽減に繋げる。 →会議ルール(時間、メンバー)の決定、報告議題事項の事前把握 ルール(時間等)は決めているが上手く機能していない。会議への参加はリーダー・主任。 特浴介助の軽減をはかるため、介護ロボットの導入を検討する。 介護記録ソフトの導入 勤怠管理のデジタル化・ユニットごとで勤務作成を行う(KINGOFTIME等) 業務時間、業務内容の見直し(タイムスタディ調査) 委員会の見直し 特浴業務の見直し(人手がとられている) 	<ul style="list-style-type: none"> 各ユニット、介護手法・手順の確認を行い、マニュアルを作成するなどし統一する。 施設長との定期的な面談。一対一での面談を行う。 業務時間、業務内容の見直し リーダー研修の実施 メンタルヘルスケアの実施 介護技術に関する研修の実施 ハラスメント研修の実施 ストレスマネジメント
課題解決の取り組み優先度	1	3	2	4
課題の難易度 (3難・2普・1易)	3	1	3	2
担当者				

腰痛に関して行う対策

1. 腰痛調査、腰痛アンケートの実施

どのような場面で腰痛が生じているか等々の詳細把握

2. 非装着型移乗ロボットの検討・選定・メーカー説明

かごロボ訪問→移乗支援介護ロボットの試用体験

メーカーによる試用説明会の開催

3. 情報共有

スタッフ間でサポートが生じる可能性がある利用者様を明確化し、都度会議等で情報を共有

手順3 実行計画を立てよう (2 / 8)

問題解決の道筋シート		
深堀原因	移乗場面における職員の体力不足、スキル不足によって「ムリ」をすること	に対し
業務改善の取組 (打ち手)	移乗支援介護ロボットの導入	を実施することにより
好転換された 深堀原因	「ムリ」な移乗介助が少なく	(と) なり
原因	腰痛、介護負担感	(という) 問題が解消・軽減され
結果	就業継続困難 (腰痛・体力不足で働けない) と思う職員	がなくなり
悪影響	移乗時の不安、人手不足、業務負担の 不平等感	の改善が期待できる。

ロボットの検討：かごロボ訪問 (10月29日)



対面ミーティング（11月9日）

介護ロボットの選定の要件

- ・ 腰痛や疲労感などを軽減できること
- ・ 一人介助で入浴に関する移乗支援ができること
- ・ 人手が少ない時に心理的安心感が得られること

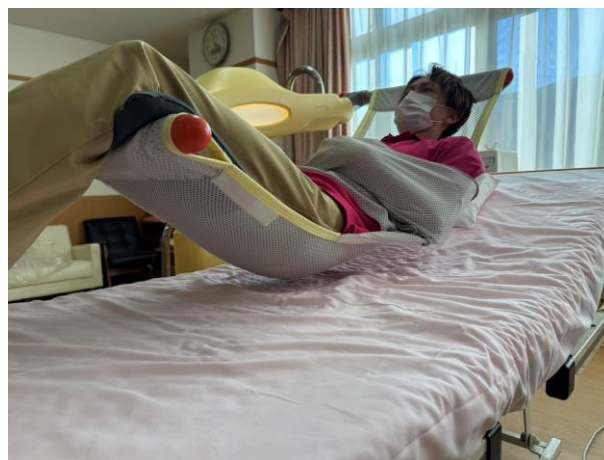
試用前評価

- ・ 腰痛アンケート（10月16日～10月31日）
⇒結果は後述



メーカー説明会の実施 (11月11日)

オンラインにて説明を受けながら、実際にSASUKEの操作を行った。



試行的導入（11月18日～12月6日）の準備

＜＜試用場面＞＞

- ・ 入浴介助に関連し、居室と脱衣所での移乗

＜＜対象者の要件＞＞

- ・ 筋力低下がある寝たきりに近い方
- ・ 体格が大きい方

＜＜職員の要件＞＞

- ・ 入浴介助を行う職員
- ・ 小柄もしくは筋力が弱い職員



試行的導入（11月18日～12月6日）

- 施設用ミニマニュアルの作成
- メーカー説明を受け、機器操作に習熟した職員が試行的導入を行うユニット職員へ操作方法、注意事項の指導を行った。

居室での利用場面



脱衣所での利用場面



試行的導入中に得られた課題

試行的導入の段階で、SASUKEの動かしづらさ（重い）が判明

（原因）

施設の床材が柔らかく、現在試用中のSASUKEのキャスターが小さいことから、操作が重くなっている。

（対策）

メーカーへ相談

小型キャスターを大型キャスターに変更

（結果）

操作性が改善した



P（改善活動の準備、現場の課題を見える化、実行計画） の段階で苦労した点・工夫した点

かご
＼ロボ／ 2024

（苦労点）SAKUBEが重く、取り回しが困難だった。

（工夫点）大型キャスタータイプのSASUBEを追加導入した。

（苦労点）使用方法（シートにバーを差込む等）が分からない職員が多くいた。

（工夫点）他の職員と使いこなしの共有をした（施設LINE等を活用）。

（苦労点）使用中に「怖い」と訴える入居者がいた。

（工夫点）使用時に動作が見えるようにしたり、シートの位置を工夫することで安心して体をまかせて頂けるよう工夫した。その後「こちらの方が安心」と仰るようになつた。

（苦労点）職員の中には使いたがらない者もいた。

（工夫点）職員同士で使用を促し続けた。

上記のような「介護ロボットの試用に関する情報」を職員全体で共有した。

パッケージモデル

P	手順 1	改善活動の 準備をしよう
	手順 2	現場の課題を 見える化しよう
	手順 3	実行計画を 立てよう
D	手順 4	改善活動に 取り組もう
C	手順 5	改善活動を 振り返ろう
A	手順 6	実行計画を 練りなおそう

施設用ミニ・マニュアルの初版

SASUKE使用方法

■シートの敷き方

「SASUKE」と印字されているほうが利用者様の**頭側**に来るように敷く

- ①膝の下にクッションを入れる
シートの下を膝に合わせる



- ②安心ホルダをする
黄色の目印を利用者の肘にくる



- ③安心ホルダをコンパクトにまとめる
利用者様の腕に巻き付ける



- ④ベッドをギャッジアップさせ高さを合わせてから利用者様の膝を少し浮かせ、SASUKE棒をシートの輪に入れる



- ⑤緑のボタンを長押し、片手モードへ切り替える
足側に立って左手で操作する



- ⑥SASUKEが1番上まで上げる



施設用ミニ・マニュアルの初版

- ⑦頭側を残して、足側を動かす
- ⑧スペースのある所まで移動



- ⑨車いすを体の下に入れる
フットレストを上げ、ひじ掛けを下す
(SASUKEの足幅内に車椅子の後輪を入れる)



- ⑩足側に立って、片手でボタンを押して
SASUKEを下す

SASUKEを移動するときは、利用者の足元を動かす

介護ロボットの本格的導入 (12月9日～1月15日)



手順5 取り組みの結果

パッケージモデル

P	手順 1	改善活動の 準備をしよう
	手順 2	現場の課題を 見える化しよう
	手順 3	実行計画を 立てよう
D	手順 4	改善活動に 取り組もう
C	手順 5	改善活動を 振り返ろう
A	手順 6	実行計画を 練りなおそう

施設用ミニ・マニュアル最終版の作成

SASUKE使用方法

■シートの敷き方

「SASUKE」と印字されているほうが利用者様の**頭側**に来るように敷く

①ベッドにピッタリと寄せる

キャスターのストッパーはかけない



②膝の下にクッションを入れる

シートの下を膝に合わせる

③安心ホルダをする

黄色の目印を利用者の肘にくる



④安心ホルダをコンパクトにまとめる

利用者様の腕に巻き付ける



⑤膝にアームを差し込む



⑥ベッドをギャッジアップし

頭側のアームを差し込む



⑦緑のボタンを長押し、片手モードへ

切り替える（緑のボタンが点滅する）

足側に立って左手で操作する



施設用ミニ・マニュアル最終版の作成

⑧ SASUKEが止まるまで上げる



⑨ 足側のアームの先端を持ち足側を動かす
(足側⇒頭側を交互に動かすと軽く動かせる)

⑩ スペースのある所まで移動



⑪ 緑のボタンを長押し、両手モードへ切り替える (緑のボタンが点滅する)



⑫ 車いすを体の下に入れる
フットレストを上げ、ひじ掛けを下す
(SASUKEの足幅内に車椅子の後輪を入れる)



⑬ おしりの位置を車椅子の座面に深く座るように調整する



⑭ 足側に立って、片手でボタンを押してSASUKEを下す



⑮ リクライニングを起こす
シートにゆとりが出るまであげる



⑯ 頭側のアームを抜く



施設用ミニ・マニュアル最終版の作成

⑰膝のアームを抜く

足をフットレストに乗せて隙間を作って、回しながら抜く



⑱SASUKEと反対側の肘掛けを上げる

転落防止のため必ず行う！

⑲安心ホルダを外す



⑳SASUKE車いすの後方に回して移動する

SASUKEを移動するときは、利用者の足元を動かす

施設用ミニ・マニュアル最終版の作成

シートの取り扱い注意

◎特浴用 1枚 ◎ご本人用 1枚

■洗濯

※マジックテープをつけたまま、専用ネットで洗う

※乾燥機は使用禁止

バッテリーについて

事務所で充電・・・強い衝撃を与えないよう注意する

・各部の主な機能・使用方法 <https://youtu.be/va0RuydJIE0> (2:30)



・専用シートの敷き込み <https://youtu.be/HscbHzv2hoY> (1:25)



・ベッド⇒リクライニング車いす着座 <https://youtu.be/h4hfaoAbOIM> (3:30)



・リクライニング車いす⇒ベッド https://youtu.be/V_AVIRewPKg (2:30)



・ベッド⇒標準型車いす着座 https://youtu.be/tV_hM47Ij8 (3:20)



・標準型車いす⇒ベッド <https://youtu.be/gKITn6PVMnw> (2:55)

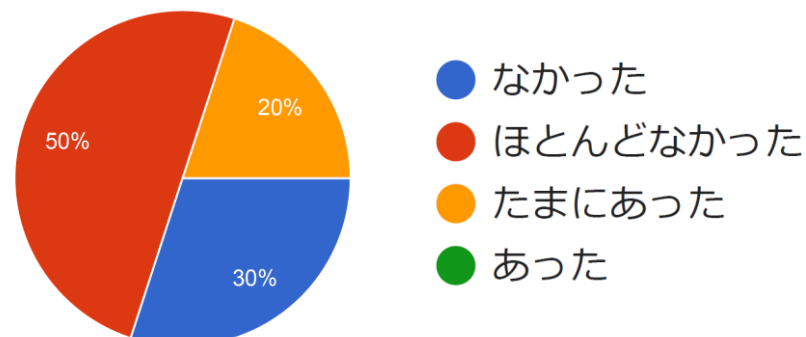
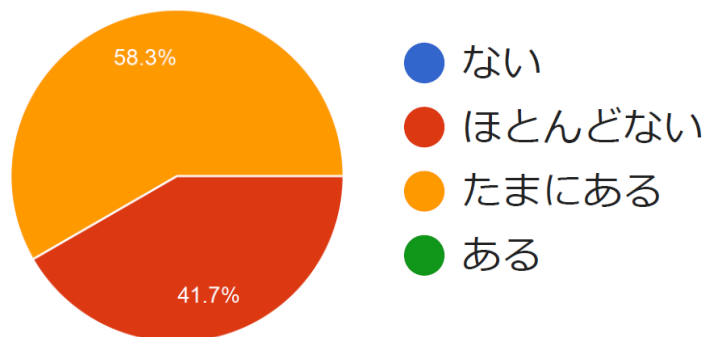


腰痛アンケート結果

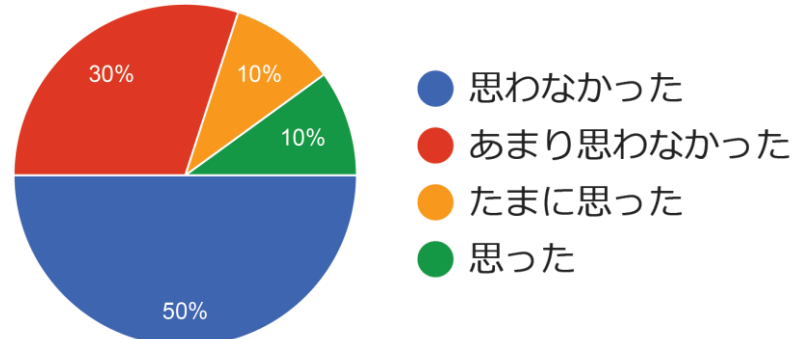
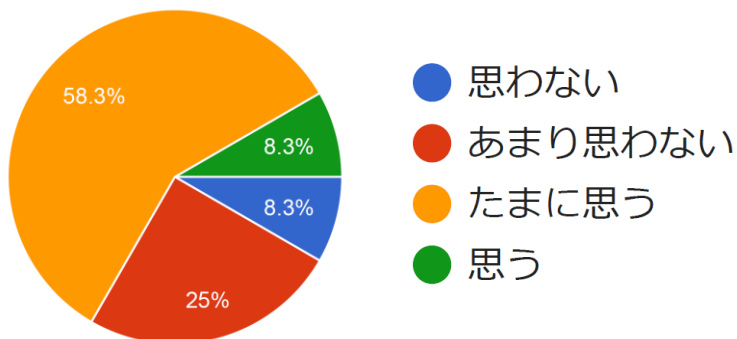
試用前 (n=12)

試用後 (n=10)

問：移乗介助の際にひやりとすることがありますか？



問：体格の大きな利用者（患者）に対し移乗介助をしたくないと思いますか？

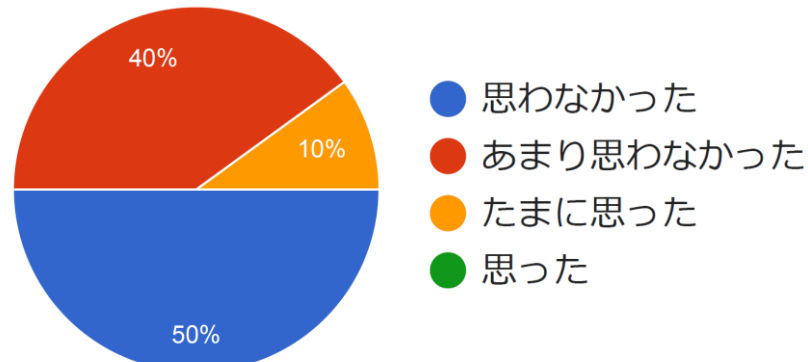
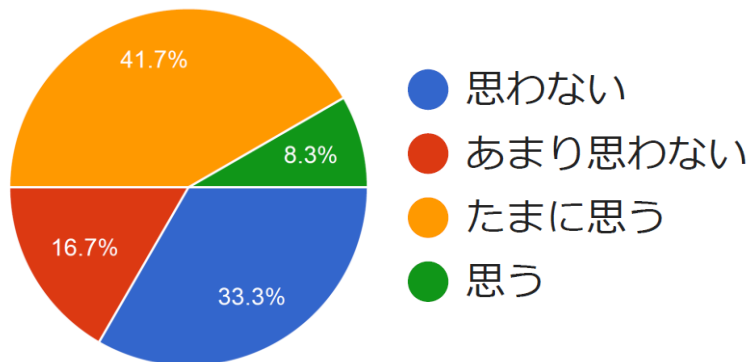


腰痛アンケート結果

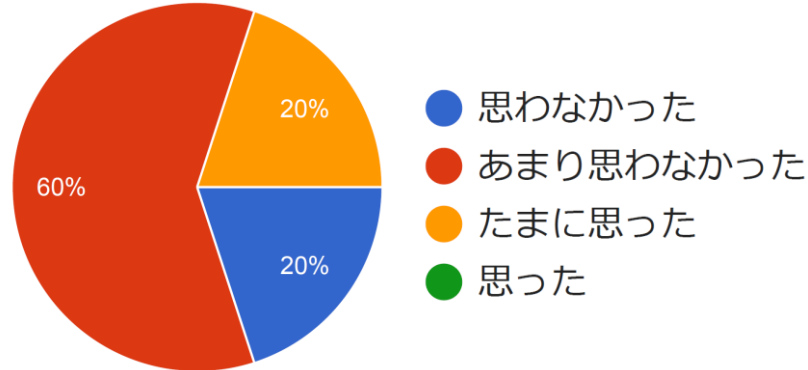
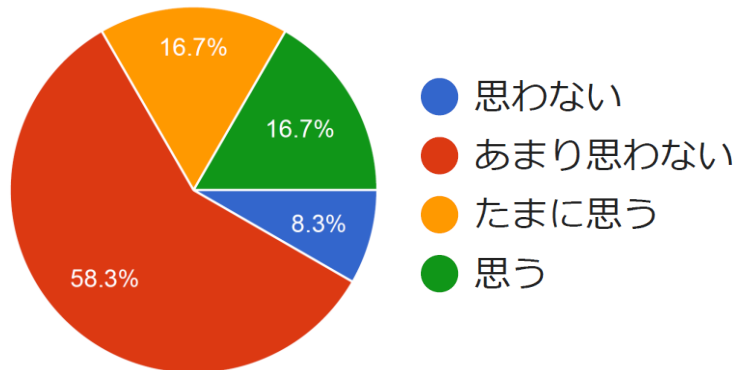
試用前 (n=12)

試用後 (n=10)

問：できれば移乗介助業務を避けたいと思いますか？



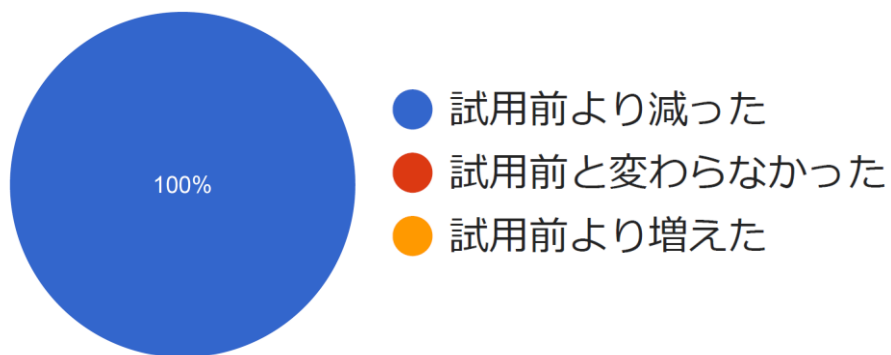
問：移乗の際、介護ロボットを使うのは面倒だと思いますか？



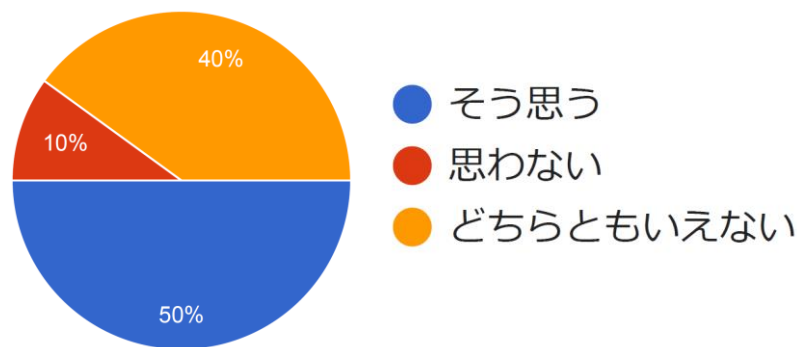
手順5 改善活動を振り返ろう (7 / 8)

介護ロボット導入に関するアンケート結果 (n=10)

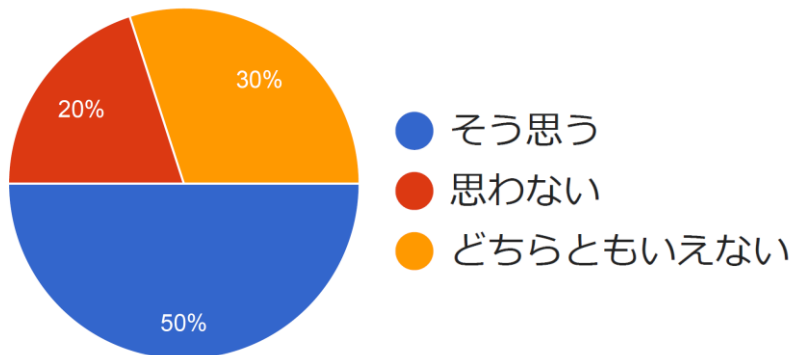
問：介護ロボット試用期間中に同僚に移乗介助の手伝いをお願いする機会は減りましたか？



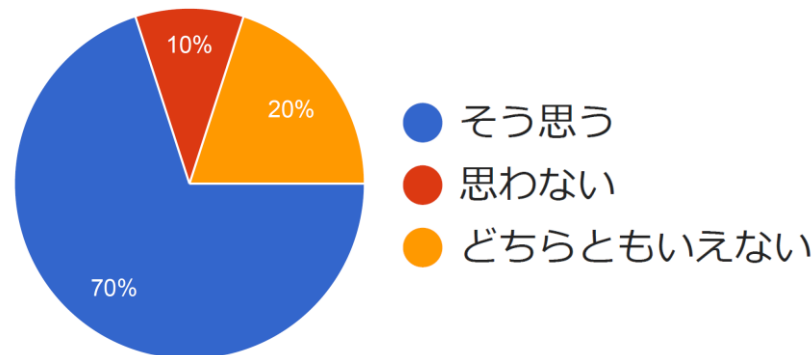
問：介護ツールの選択肢として介護ロボットを用意することは施設の責務だと思いますか？



問：介護ロボットを用意することは職員離職率低減に貢献と思いますか？



問：介護ロボットを用意することは求人に関与すると思いますか？



オペレーションの変化

従来の
オペレーション
(2人体制)



ベッドからストレッチャーへ



ストレッチャーから
特浴用ストレッチャーへ



特浴用ストレッチャーから
ストレッチャーへ



ストレッチャーからベッドへ

SASUKE試用後のオ
ペレーション
(1人体制)



車椅子から特浴用ストレッチャーへ



特浴用ストレッチャーから
車椅子へ



車椅子からベッドへ

手順6 取り組みの結果

パッケージモデル

P	手順 1	改善活動の 準備をしよう
	手順 2	現場の課題を 見える化しよう
	手順 3	実行計画を 立てよう
D	手順 4	改善活動に 取り組もう
C	手順 5	改善活動を 振り返ろう
A	手順 6	実行計画を 練りなおそう

＜＜環境整備＞＞

- 施設の部屋の作りが異なる
入居者の居室移動を検討（環境・オペレーション変更）することにより、ロボットを活用できる環境へ変えていく。
- 対象者7名に対してシートが10枚程度は必要

＜＜オペレーションの変更＞＞

- 今後重度の介護者が増えていくことが予測される
- 二人介助から一人介助へ向けて
今後一人で介護を行う際の事故防止の検討が必要
例) リスク管理としてストレッチャーのサイドガードの設置等
- 浴室用と居室用の使い分け
- 操作時車椅子とSASUKEの接触による破損に注意が必要

かご
＼ロボ／ 2024 導入の成果



＜＜介護ロボット導入の成果＞＞

- 腰痛の軽減
SASUKEを使用することで実際に腰痛が軽減した職員が複数名いた。
- 人が少ない時間帯でも移乗が一人で可能だった。
- 二人介助で行っていた特浴を一人で行うことが可能になった。
- 感染症流行時等、急な職員数減少時にも対応できた。
- 腰痛アンケート調査より介護負担感の解消を認めた。

＜＜チームとしての成果＞＞

- 実行力、主体性の醸成
一人で実行するのではなく、それぞれの役割を持ち、個々が実行することができチーム全体の実行力や主体性を感じることができた。
- 小さな改善から取り組みはじめ、職場環境が変化していった。
- 試行的導入中は、プロジェクトメンバーから各ユニットリーダー（サブ）、介護職員全体という流れで進め、3ユニット同時にSASUKEを使用した支援が開始できたことで、情報共有や意見交換ができた。

①今回なぜ「かごロボ」に依頼をしようと思ったか

※施設内ですで見守り支援ロボットを数台導入はしていたが、さらなる生産性向上のために専門家の方々に入って頂いて本格的に介護ロボット・ICTを導入したかった。

※介護業界にとって「介護人材の確保」「離職防止」が最大の課題。介護ロボット・ICTを導入し、職員の働きやすい職場環境作りを行いたかった。

②今回の取組みに対しての感想

専門家の方々に施設内に入って頂くことによって、施設の様々な課題も見えてきた。

介護ロボットのみならずその他の問題（環境問題）にも取り組めたことはとても良かった。

また今回のSASUKEをはじめ機器導入に際しては全て現場の職員で話し合い購入機器を決定した。職員が自ら考え、主体的に取り組めたことは大変良かったと思う。

③今回の取組みの成果

今回の取組みはSASUKEを主としてはいたが、それ以外にも見守り支援システム「眠りSCAN」や介護ソフトの導入、タブレット・スマホの導入、インカムの導入も行った（インカムのみ3月導入）。総額で1400万円の経費を要したが、生産性向上推進体制加算(Ⅰ)の機器等の加算要件は満たすことが出来た。

④今後について

全ての機器をしっかりと使用するよう意識づけを行う。定期的に評価を行い改善を行っていく。介護ロボット・ICT、3S活動などによって短縮出来た時間を入居者との時間に当て

「ほほえみと優しい言葉に溢れた施設になる」という法人理念を推進していく。

付録) 3S活動の取り組み

	課題 1)	課題 2)	課題 3)	課題 4)
改善する課題	身体的負担の軽減	労働環境の課題	業務効率化 (記録業務、デジタル化)	チームワーク (職場の雰囲気・業務の公平性・コミュニケーション)
課題分析	<p>(腰痛)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・トイレ移乗時の腰痛 ・入浴介助時の腰痛 <p>(技術・腰痛)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・体重が重い人の移乗介助困難 ・拘縮がある方の移乗介助困難 <p>(技術)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・職員の体力不足 ・福祉用具の活用困難 ・介護技術のばらつき 	<p>環境整備)</p> <ul style="list-style-type: none"> 職場清掃 物品修理・チェック 休憩場所の確保 環境保全意識 他人まかせ体質 清掃時間がない メンテナンス) 専門性の高い清掃困難 <p>※具体的に記載願います。</p>	<p>書類業務)</p> <ul style="list-style-type: none"> 重複記録 手書き記録 勤怠管理が煩雑 <p>※現状の勤怠管理状況について教えてください。</p> <ul style="list-style-type: none"> 手書き、ファイリング 手書きの負担、会議負担 <p>(業務負担)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・人手不足 ・会議関連業務の多さ ・入浴(特浴使用時)が二人介護 <p>→入浴業務評価</p>	<p>(コミュニケーション)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・指示の不明確さ ・ホウレンソウの不徹底 (心理的安全性) ・悩みを相談できない <p>※メンタルヘルスに関する取り組み等がありますか？</p> <p>(連携)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・自己流の介護 ・勝手な自己判断
改善活動案	<p>介助等について研修を実施する。</p> <p>移乗介助時の負担軽減を行うため、介護ロボットの導入を検討する。</p>	<p>物品管理リストを作成。</p> <p>休憩場所の確保</p> <p>専門性の高い清掃困難・・・現在、フィルター清掃は定期的に行っているが限界がある。特に埋め込み式エアコン。</p>	<p>システムを導入しデジタル化をはかる。</p> <p>会議関連業務の多さ(委員会)</p> <p>特浴介助の軽減・・・介護ロボットの導入</p>	<p>介護手法、手順の統一をはかる。(各ユニット)</p> <p>悩みを相談できない</p>
実施する改善活動	<p>ボディメカニクスの研修を実施(今後検討)</p> <p>介護ロボットの導入・・・リフトを導入(検討中)。 デモ機による試行導入。</p> <p>(機器の活用)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ロボット導入場面のアセスメント(移乗業務評価) 機械浴(入所者の1/3が該当)、トイレ介助は大丈夫 車いす移乗 ・介護ロボットの導入→(センターにて機器の体験)いつ? ・リフトの導入→(センターにて機器の体験)いつ? 試用の範囲→それほど大変じゃないユニット 本格導入→大柄・寝たきりの方が多いユニット (教育) ・介護技術向上の指導、研修会の開催 →いつ?だれに依頼?どのような内容? ・腰痛アンケート実施→いつ?誰に? 	<p>物品管理リストを作成する。管理場所なども記載。</p> <ul style="list-style-type: none"> →職員の間違の差、プロセスの課題 本館場所の確保に向け場所等の検討を行い、プライベートスペースを確保できるようにする。 →休憩ルール(場所、時間)について協議、周知 物品を分かりやすいように保管、リストを作成する。 整理している物品を定期的にチェックし管理する(クラウド) 整理整備の習慣づけ 本館スペースの見直し、休憩の取り方の統一(安心して休憩をとれる仕組み) 専門性の高い清掃は専門業者に依頼する →3S(整理整備清掃)ルール作り、環境設定、習慣化 	<p>介護記録ソフト・シフト管理システムの導入・・・進行中→何を導入するかは未定だが、業者の説明を受けている。現在ワズマンで運用中。</p> <p>(現状)シフト作成⇒Excelにて作成</p> <ul style="list-style-type: none"> 出勤簿・届出等⇒紙ベース 給与計算集計⇒事務職による手作業 <p>会議関連業務の多さ(委員会)の開催回数の確認にし、負担軽減に繋げる。</p> <ul style="list-style-type: none"> →会議ルール(時間、メンバー)の決定、報告議題事項の事前把握 ルール(時間等)は決めているが上手く機能していない。会議への参加はリーダー・主任。 <p>特浴介助の軽減をはかるため、介護ロボットの導入を検討する。</p>	<p>各ユニット、介護手法・手順の確認を行い、マニュアルを作成するなどし統一する。</p> <p>施設長との定期的な面談。一対一での面談を行う。</p> <p>業務時間、業務内容の見直し</p> <p>リーダー研修の実施</p> <p>メンタルヘルスケアの実施</p> <p>介護技術に関する研修の実施</p> <p>ハラメント研修の実施</p> <p>ストレスマネジメント</p>
課題解決の取り組み優先度	1	3	2	4
課題の難易度 (3難・2普・1易)	3	1	3	2
担当者				

施設長によるキックオフ宣言（10月21日）

★ 課題

物品の置き場所が決まっておらず、必要になった際に探すことからスタートするため時間がとられる。また、「誰かがしてくれるだろう」と人任せになっている。

★ 取り組みを行うメンバー

主担当者：介護福祉士

メンバー：管理栄養士、介護福祉士

（他のプロジェクトメンバーも参加可能な際は行う）

★ 整理整頓を行う場所

海ユニット 介護材料室

★ 整理整頓を行う期間と日時（10月22日～11月7日）

メンバーが多職種のため、日常業務に影響のない日程と時間（概ね20日以内）で実施。

1回の時間を30分程度と決め行った。

P) 改善活動の準備

- プロジェクトチーム作り・合意形成・キックオフ宣言

P) 課題の見える化

- 現状の課題の抽出（どんな困りごとがあるのか）

P) 実行計画を立てよう

- 3Sを行うエリアと期限を決定・画像撮影・仕訳/補充ルールを検討（大事）・マニュアル作成

D) 改善活動に取り組みよう

- いるもの/いないものを仕分け・いるものを用途ごと/使用部署ごと/季節ごとに整理・画像撮影

C) 活動を振り返ろう

- マニュアル改定・職員に周知

A) 計画を練り直そう

- 他のフロア/他の階へ横展開

P) 課題の抽出	P) 実行計画	D) 改善活動
<p>＜＜環境の問題＞＞</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 職場清掃 ・ 物品修理 ・ チェック ・ 休憩場所の確保 <p>＜＜職員の問題＞＞</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 他人まかせ体質 <p>＜＜職場の問題＞＞</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 清掃時間がない 	<p>決めること</p> <p>＜＜責任者＞＞</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 火元責任者のようにスペースごとに決めておく <p>＜＜エリア＞＞</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 広すぎず、ごちゃごちゃしていないスペースを選ぶ <p>＜＜期間＞＞</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 活動時間の確保 ・ 開始日～介護ロボット到着予定日前日 	<ul style="list-style-type: none"> ・ 画像撮影 ・ 仕訳ルール検討 いるのか/いないのか 誰が判断するのか どこにまとめるのか ・ 補充ルールを検討 欠品の補充 故障品の買替え →マニュアル作成 (A4一枚程度) ・ 清掃実施

取り組み

- 必要な物品と不必要な物品の仕分け
- 活用の種類ごとにまとめる（行事用など）
- 清掃を行う
- 棚の配置換え
- おむつの整理
- 最終的な清掃、配置、ゴミ出し

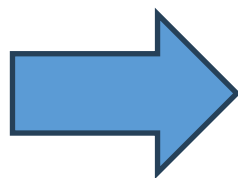


改善の工夫やルール

倉庫左側奥 倉庫上段	使用頻度の低い物	行事用の衣装など
倉庫右側中段 倉庫右側下段	使用頻度の高い物	おむつ、トイレットペーパー、ペーパータオル、手袋
倉庫左側中段 倉庫左側下段	洗剤など 感染対策の物	ガウン・マスクなど

◎各ユニット、リーダーを主体に定期的に仕分けを行う。

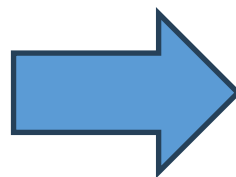
取り組み前



取り組み後



取り組み前



取り組み後



取り組みの成果（雰囲気など）

業務の変化

- 仕分けをし不要な物を処分することで、どこにあるかなど探す時間が短縮された。
- 探すことへのストレスが軽減された。

職員の变化

- きれいになったことで片付けへの意識が向上し、きれいな状態を維持できるようになった。
- 他の場所の片付けも空いた時間で行うようになった（習慣化）。
- 今回は1ユニットのみ行ったが、他のユニットも意識が高まり片付け・清掃を行うようになった。

かご
＼ロボ／ 2024

